

湖都通信

看護学科版

07

Coto Tsushin
[Nursing subject Version]

2021. 3. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



CONTENT

医会賞を受賞して.....	武内 一・湯浅 健	2
会員からのたより.....	小池ゆかり・藤本達矢・山下 敬	5
学生会員からのたより.....	織田和花菜・徳田彩緒依	8
看護学科交流会.....	交流会班	10
同期会10年会.....	玉里八重子・藤居弥生・澤ひかり	11
新型コロナ禍の学生の状況.....	山下 敬	14
編集部から.....	西尾ゆかり	15
計報.....		15
事務局から.....	総会議事録 ほか	19

滋賀医大に学ぶ学生の皆さんへのメッセージ



佛光大学社会福祉学部 教授／ウメオ大学客員研究員

武内 一(医3期)

湖医会賞をいただき、本当に名誉なことと心からお礼申し上げます。そして、落ち着いた人生を歩んできた私のようなものを推薦してくれた、前社会医学講座衛生学部門准教授で同級生の埴田さん、ありがとうございました。受賞に際して、私の歩んだ人生が何かしら在校生や若き医療人の皆さんのお役に立てばと思います、卒業後の話を書かせていただきたいと思います。

島の小児医療

私は香川県小豆島の出身です。滋賀医大生の頃、島の町立病院で小児科医として働くのが自分の将来像でした。1983年に卒業後その夢を叶える道を考え、日常診療で当たり前に出会う疾患の診療を経験しようと大阪府堺市にある民医連の総合病院で小児科研修を始めました。当時はまだ現在のような臨床研修制度はなく、出身大学医局でのストレート研修が一般的でしたから、少数派の選択でした。

今ほど医療の役割分担が明確でなかった時代だったため、私は細菌性髄膜炎の治療はもちろん、白血病や麻疹巨細胞性肺炎、急性心筋炎やインフルエンザ脳症など重症患児への対応もこの病院で経験しました。母校ということもあり、研修1-2年目の頃、患者の相談で当時の島田司已小児科教授の元を訪ねたことがあります。その時私のために病棟回診をしていただき、母校のありがたさにジーンとなった記憶は今も鮮明です。

1995年に初心を貫き、小豆島の町立病院小児科

開設のため島に戻り4年間勤務しました。町内ほぼすべての子どもたちを診るため、自分の診療スタイルがイコール地域全体の診療のあり方となります。そんな4年間で、今も小児外来診療の現場で最も注意すべき侵襲性細菌感染症の原因菌である肺炎球菌の抗菌薬耐性を減らせるという思いがけない経験をしました。この事実に共感してくれた小児科医の仲間が集まって、小児上気道炎及び関連疾患に対する抗菌薬適正使用のためのガイドライン作成が始まりました。外来小児科学会挙げてこの取り組みを応援いただき、学会が推薦する小児外来診療における指針となり、抗菌薬の適正使用が小児科医の間で急速に広がる大きな変化につながりました。

医療は患者と共にある

その後再び堺の病院に戻りますが、この外来診療ガイドラインづくりを通じて、特に小児の細菌性髄膜炎の最も重要な原因菌であるインフルエンザ菌b型(Hib)の早期診断の困難さが明らかとなり、抗菌薬適正使用ガイドラインの限界も感じるようになりました。つまり、症状からも白血球数などの炎症所見からも髄膜炎の早期診断が難しいのです。この問題を解決するにはワクチン導入しかない。2006年髄膜炎を予防するHibワクチンなどの日本への導入の遅れに関して新聞取材を受けました。その記事をもって髄膜炎の後遺症と向き合うお子さんを連れた一人のお母さんが、私の診察室を訪れました。この母子と細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会(Japan Child Meningitis Organisation=JaCMO)を立ち上げ、髄膜炎の主要な原因菌であるHibと肺炎球菌の重症感染症を予防するワクチンの定期接種化をめざす運動に足を踏み入れました。国会内学習会や厚労省交渉を重ね、集めた署名の合計は20万筆を超えました。この活動はマスコミからも注目され、私たち草の根からの声も政治判断への後押しとなって2011年1月からHibワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの公費での接種が実現し、2013年4月より定期接種となりました。医療は患者と共にある、その

思いを確信できるJaCMOでの活動は今も続いています。

社会小児科学

医療現場での経験は、これら髄膜炎に関わるワクチンの定期接種化への運動だけでなく、社会の抱える格差と貧困という子どもの未来を奪う問題の解決を考える思いにつながり、縁あって佛教大学社会福祉学部の教員としての研究活動に発展しました。2009年、52歳で臨床医から研究者への遅い転身ですが、医療と福祉をつなぐ分野を拓くには自分が適任だとの思いでチャレンジし、今に至っています。

子どもの貧困問題を医療の分野から全国の小児科を標榜する医療機関との共同研究を通じて貧困問題に関わる情報を発信してきました。日本の子どもの貧困問題を国際的な視野から考えたいと、旧知のスウェーデンの小児科医の仲介で2017年に1年間、勤務する大学から生活保障を得てスウェーデン・ウメオ大学医学部で学べる機会に恵まれました。海外で生活して海外から日本をみる、この経験は視野広く子どもの権利を考える必要性への気づきとなり、「ありたい」「なりたい」子どもたちの未来を保障するアプローチの重要性への理解の深まりとなり、COVID-19禍にある子どもたちの権利保障に海外の研究者と共に取り組むことが、今後の研究テーマとなっています。今の私は、医療と社会・福祉の関係を考える「社会小児科学」という学問分野を強く意識しています。

滋賀医大とウメオ大学

実は、スウェーデンの皆さんは本当に日本が大好きで、現地で過ごした2017年は、スウェーデンと日本の学術交流150年の節目の年でもありました。ウメオ大学で私の研究活動を指導いただいた教授が、医学部国際部門担当の責任者になられた縁もあって、滋賀医大とウメオ大学医学部との交換学生の流れにつながっています。COVID-19パンデミックで2020年には事業はスタートできませんでしたが、滋賀医大とWHOのテドロス事務局長を輩出したウメオ大学医学部との交流の進展に大いに期待しています。

「ありたい」「なりたい」未来

私の卒業後を振り返ってみました。改めて思うのは、人との縁が私の人生を紡いでくれてるんだ、ということです。もっと言えば、人との出会いが私の人生そのものと言えます。出会いは偶然でもありますから、人生は思い描いたようには積み上がらないとも言えますね。でも、こんな生き方もありなんだ、そんなふうに思っていなければ幸いです。

皆さんの未来は、皆さんが思うよりもっと自由で豊かに広がっています。人とのよき出会いを大切にしてください。そして、皆さんの思い描く「ありたい」「なりたい」未来を大切に持ち続けてください。

武内一

専門領域：小児保健、社会小児科学

2006.10-細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会
(JaCMO) 副代表

2009.04-佛教大学社会福祉学部教授

2016.08-日本社会医学会評議員

2017.04-ウメオ大学 疫学とグローバルヘルス研究
科 客員研究員 (教授)

2018.11-すべての人への子どもの健康情報 (子どもの健康と権利 CHIFA) 運営委員

臨床医を経験した研究と、研究者を経験した臨床



がん研有明病院 泌尿器科 化学療法担当部長

湯浅 健(医9期)

9期生の湯浅です。今回は第19回『湖医会賞』をいただくことになり、大変光栄に思います。お世話になりました諸先生がた、同窓会の皆様、推薦いただいた藤原遼先生、そして何よりも、研究・臨床生活を支えてくれている家族に心より御礼申し上げます。これまで、引っ越しも10回以上することになりました。受賞にあたり私が歩んできました道のりと対象となった基礎研究、臨床医としての仕事についてご紹介させて頂きたいと思います。

泌尿器科入局から僻地中核病院へ

卒業後、滋賀医大泌尿器科に入局し臨床医としての生活をスタートいたしました。その頃の滋賀医大は新設大学で近隣に関連病院がなく、研修医修了後は日本海側の僻地中核病院での1人泌尿器科医長が恒例でした。僕は、福井県小浜市民病院、京都府弥栄町国民健康保険病院で研鑽する機会を得ましたが、自治医大卒の木村晋也先生と一緒に働いたのもその頃でした。人口は少ないものの、その地方で唯一の泌尿器科医として働く機会が与えられたのは大変貴重な経験ができたと思います。

大学院からハーバード留学を経て京都大学へ

大学院では、磯野高敬先生と吉貴達寛先生に教わり毎日PCRを行い、現在は尿路上皮がんの病理診断として欠かせないウロプラキンのDNA配列を決定や、現在ではliquid biopsyとして広く知られるようになる血中がん細胞の検出などを精力的に行い

ました。その後、Harvard Medical SchoolにてJing Zhou先生のもとでpoly-cystic kidney diseaseの遺伝子研究に従事しました。昨年、滋賀医大泌尿器科の後輩である小林先生の推薦状依頼を受けたのも嬉しい縁を感じます。帰国後は、木村晋也先生に誘われて京都大学輸血細胞治療部の前川平先生のもとで基礎研究を継続することができました。

臨床医として活動再開

秋田大学の羽渕友則教授のもとで、泌尿器科医として臨床復帰させていただく機会をいただきました。このころ泌尿器がんに対しても分子標的治療の治験・臨床導入が開始された頃で、大いに興味を持って臨床を再開できるとともに、motivationの高い若い先生たちの研究活動を指導できる機会にも恵まれました。その後、現在のがん研有明病院で泌尿器がんの薬物療法を担当することになり現在に至ります。がん研有明病院は、本邦のがん治療において中心的な役割を担っているhigh volume centerです。今回推薦してくれた藤原遼先生その他、高い志を持った多くの若い先生たちと、臨床医として厳しく働き、研究では楽しんで指導する機会をいただきました。

現在卒後30年を超えましたが、そのうち10年を基礎研究、20年を臨床医として働いてきました。どちらの立場も経験できるのは医学部卒業生の特典の一つだと思います。臨床医としての視点から基礎研究ができるのは大きなアドバンテージがありますし、基礎研究者からの視点は実臨床にも必ず生きてきます。現在、滋賀医大の学生さん、若い先生がたは大きな可能性を持っています。大学を卒業すると、さまざまな病院で研修を受ける機会があると思います。現在は、僕らが医師になった頃よりも遥かに教育・指導システムが充実しています。皆さんが、自分の可能性を信じて、大いに学び、大いに楽しんで、自分の人生を邁進くださることを祈念します。

退院調整看護師として…

滋賀医科大学附属病院 患者支援センター

小池ゆかり (看12期)



私は現在、滋賀医大附属病院の患者支援センターで退院調整看護師をしています。大学を卒業後、同病院で10年間、消化器・血液内科の看護師として勤務しました。その後、11年目に現在の部署に異動となりました。退院調整看護師としての主な業務は、病棟から自宅に退院していく患者さんや在宅療養している患者さんの療養環境を整えていくことです。

ずっと、病棟・ベッドサイドという一番患者さんに近いところで看護をしてきたので、退院調整看護師として働き始めたときは戸惑いがありました。戸惑いの一つは、地域で患者さんの生活を支える関係者の方々との連携でした。病棟ではあまり関わることのなかった診療所の医師や訪問看護師、ケアマネジャーといった様々な職種の方と、患者さんの生活をともに考えていくという経験はあまりしたことがありませんでした。しかし、地域の医療関係者の方と関わるようになり、在宅で受けられるサービスや医療がこんなにもあるのだと学ぶことができました。病棟での勤務時代には、病院でしか過ごすことができないと思っていたような医療依存度の高い患者さんが、在宅で家族と穏やかに過ごすことができるということを知りました。特に異動一年目は、地域の医療者の方々のパワーにとっても驚かされました。

もうすぐ退院調整看護師として2年目が過ぎよう

としています。私はこれからも、看護師として、患者さんのどこでどう生きていきたいのかという思いを叶えていけるように病院と地域の架け橋になっていきたいと思っています。

地域の様々な場所で活躍されている卒業生の皆さん、そして院内で活躍されている卒業生の皆さん、もしかしたら患者さんのご相談で連絡することがあるかもしれません。その時は、どうぞよろしくお願い致します。



小児看護に携わって



滋賀医科大学附属病院 NICU看護師

藤本 達矢(看15期)

私は2012年3月に滋賀医大看護学科を卒業後、滋賀医科大学附属病院に看護師として就職し、現在に至ります。早いもので気づけば勤務10年目を迎えました。

私が新人看護師として配属されたのは、小児科病棟でした。小児科病棟では血液、循環器、神経、腎臓、内分泌、外科と対象が子どもであればどんな疾患でも入院する急性期と慢性期が混在する病棟でした。もともと学生時代の小児科実習で子どもの治療、病状生活に関わりたいと思うようになり、希望して配属されました。1年目の頃は扱う疾患の多さや、成人とは異なる小児科ならではの手技、治療が多く、仕事を覚える事で精一杯でした。年数が経つ毎に徐々に業務をこなせるようになり、自分で考えられる場面も増え、患者さんとの関わりの中で看護師としてのやりがいも感じる事が出来るようになりました。

小児看護は患者さんだけでなく、家族との関わりが非常に大切になり、子どもの代わりに、親が意思決定を担います。

小児科では患者さんだけでなく、家族のケアが大切です。意思決定を十分に出来ない子どもに代わり、親が決定を担うため、家族の負担や不安は大きいも

のになります。子どもの治療をより良いものにするためにも家族のケアを十分に行っていき、療養生活を整えることの重要性を学びました。子どもだけでなく、成人の治療においても同様です。看護師が医師だけでなく多職種、患者、家族との調整役を担っていく事で良い療養環境を作れると思います。

8年間小児科で勤務後、現在はNICUに異動となり、新生児の集中治療を学んでいます。対象がより小さくなり、洗練された技術や知識が必要な専門的な部署ですが、小児科の時の知識は無駄にならず、自分の武器として日々働く事が出来ています。今後成人病棟や他の部署に異動しても、今まで学んだ看護を大切に続けていきたいと思っています。



流行りのオンライン飲み会といふものを、オトコ会でもしてみむとてするなり

滋賀医科大学基礎看護学講座助教

山下 敬(看5期)

【オトコ会】(をとこーかい：名詞)

…滋賀医大看護男子が密かに開催するその名の通りMen's飲み会。

1期生の小山氏が発起人となり、代々引き継がれている。不定期開催。

というわけで、オンライン飲み会してみました！
コロナのおかげで、歓迎会も送別会も自粛、自粛…。
飲み会に行くこともすっかりなくなり…。

家と職場、そして保育園との往復の毎日。

なんだかつまらないな—と思っていた今日この頃。

今回オトコ会を開催するに至ったきっかけは、今年度より湖医会看護学科の常任幹事に就任してもらった門田さんと話していた時に、オンライン飲み会って流行ってるよね、という話になり。

急ではありますが開催してみました。



緊急企画
オトコ会
—オンライン—

滋賀医科大学看護学科卒業生の男性の皆さん！
いかがお過ごしですか？
コロナの影響で色々大変ですが、これを逆手にとり、
滋賀医大看護学科オトコ会でリモート飲み会を企画しました。
「懐かしいな！」と思ったそのOBさん！
「何それ？」と思ったその現役学部生！
酒(+つまみ)を片手に、PCの前に集まりましょう！

決行日：12月13日(日)
時間：20時 開始予定

勤務希望が
まだ間に合う方は
ぜひ休み希望を
お願いします！

連絡お待ちしています！
(Zoomの招待リンクを
送ります)

発起人：山下 敬(5期生)
門田 雅樹(16期生)

連絡先 滋賀医科大学看護学科 基礎看護学講座 山下 敬
Tel: 077-548-2469 Mail: satoshi7@belle.shiga-med.ac.jp

メールを送って、参加者募って…、何とか集まりましたMen's、5人。

(たったの5人と言うなかれ。もともと看護男子は少数派…。)

上は4期生から、下は16期生まで。よく集まった！

もちろんしゃべったことも会ったこともないオッサンたちが、どんな話するのやら…どう仕切ればいいんや…と色々思っていたのですが。

お酒の勢いもあってか、盛り上がる盛り上がる(でも、あんまり看護の話はしてなかった(笑))。

あっという間に予定していた2時間が過ぎ。

途中、1期生の小山さんからのメッセージも届き、
当時は懐かしんだりしておりました。

私自身、初めてのオンライン飲み会だったのですが、大変楽しかったです。

お酒飲みながら、つまみつまんで…、ゲラゲラ笑って。

元看護男子と言っても、進んでいる道はみんなバラバラで、お互いに情報交換したりできてとても新鮮でした。

今回は急な開催で、予定が合わない方、夜勤の方もおられました。でも「次回はぜひ！」と言ってくれた人も多かったです。

現役学生にも聞かせてやりたい話も出てたし、色々な年代のMen'sが集まるといいなと思いつつ…。

目指せ毎年開催。

そしていつかまた、瀬田駅前の桃花源で。



4年間の学生生活を通して



織田和花菜(看護学科4年)

滋賀医科大学に入学し、早くも4年の月日が流れようとしています。

私は先日、大津市より内定を頂き、来年度より保健師として働かせていただくことが決まりました。4年間の授業を受ける中で興味を持った公衆衛生看護学に携わりつつも、地域で活躍できる保健師として働けることを大変嬉しく思います。

私が公衆衛生看護学に興味を持ったのは大学2年生でした。ある講義の中で「医療者であるならば煙草を吸ってしまった健康な生活を送れていない人を怠惰だと捉えるのではなく、そういった立場にある人をどのようにして健康に導けるかに焦点をあてなければならない」と教えていただきました。私はこの言葉をきっかけに、病院で働く看護師ではなく、市民の日常生活に視点を当て、当たり前健康に生活し続けられる基盤づくりができる保健師になりたいと決意したことを今でも覚えています。

卒業を控えた私から、皆さんに一番お伝えしたいことは、学生の本分は勉学であるということ、そして限りある時間を有効に活用してほしいということです。皆さんは医療者になるべくこの大学に入学しましたが、将来医療者として実現したいこと、やりたいことがイメージできているでしょうか。私は保

健師という職業に興味を持った時から、日頃の授業や教授との会話、ニュース等を通して具体的な情報を集めることで、将来への展望を構想し「私はこの分野で活躍していきたい」と明確に決意することができました。4年生での就職活動では「なぜこの病院なのか」「あなたはこの病院に何が還元できるのか」等あらゆる視点から質問をされます。後付けの理由ではなく、しっかりと自分の意思をもって進路選択をしてほしいと思います。加えて、その選択の幅を広げるためには、勉強や仕事のことだけでなく、学生生活のうちに様々なことに興味を持ちチャレンジしてほしいと思います。私は、大学生活の中でバイクやダイビング、キャンプ、ウェイクボード、スノーボードなど春夏秋冬自分が楽しめる趣味を体得することができました。趣味や知識を含め多様な引き出しを持つことで個人の人間性を高めることができ、様々な分野において人脈を広げていくことができると考えています。

来年度から大津市の保健師として、培ってきたコミュニケーションスキルや専門知識をもって日々市民の健康増進のために尽力し、私自身の目標である子育てしやすい、子供の笑顔あふれるまちにしていけるよう日々精進してまいります。



学生新聞制作に携わって



徳田彩緒衣(看護学科3年)

看護科3回生の徳田彩緒衣と申します。私は、一昨年の4月に創刊された季刊誌「SUMS TIMES」の編集に携わっています。SUMS TIMESは、「湖医会」のもとに発足した学生新聞部が制作している学内新聞です。この新聞の狙いとして、読者が表現できる機会を提供することで、学科や学年を超えて交流が図られ、他の学生や教職員への理解を促進していくことです。そのため、内容としては、先生方にインタビューを行うだけでなく、先生の人となりについて迫った記事や、「大失恋した友人に渡したい一冊」を紹介してもらったり、「卒業生名鑑」のように、学生一人ひとりの考えや個性にフィーチャーした企画を行ったりしています。



私は、創刊号において、基礎看護学講座の山下先生にインタビューを行い、記事の編集に関わりました。インタビューを行なってみて、どのような経緯で看護師となり、教員の道に進まれたのかを知り、自分たちと同じように看護学生の時代があったのだと、親近感を感じました。また、記事の編集においても、インタビュー時の先生の雰囲気を感じられるように、話し口調を出来る限り残し、インタビューの様子が伝わるように心がけました。

このように、実際にインタビューを行なったり、記事の編集に関わらせてもらうことで、様々な方の経験や考えに触れる機会をいただき、自分の学生生活をどのように過ごしていくべきか考えるきっかけになりました。また、学科や学年を超えて交流を行う現場に携われたことで、同じ大学に通っている人たちの中には、勉強だけでなく、部活や趣味に熱心に打ち込んでいる人がいるのだと刺激をもらうことができました。



看護 交流会



看護学科交流会 —e-learning を用いて—



看護学科交流会

5月から6月にかけて、e-learning上に卒業生の先輩方から作成していただいた資料掲載し、卒業生からの就職活動・国家試験対策に関するアドバイスをいただきました。

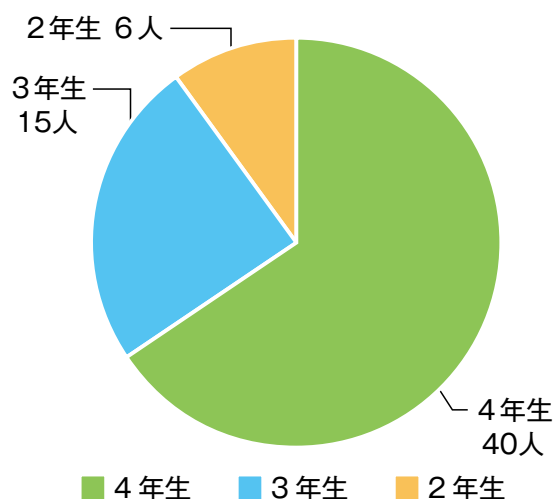
今年は6名の卒業生が協力してくださいました。

病棟看護師・訪問看護師・産業保健師・行政保健師・助産師など、様々なお仕事をされている先輩方から心強いアドバイスをいただき、在校生にとってとても励みになりました。

残念ながら今年は新型コロナウイルスの影響で卒業生の方々と直接対談することはできませんでしたが、有意義な機会となりました。

交流会に参加した学生からは、以下のような意見が寄せられました。

スライドを閲覧した学生の人数（人）



参加者は4年生が多いですが、3年生・2年生も希望者のみ参加し、国家試験や就職活動、様々な看護職について理解を深めることができました。

後に実施されたアンケートでは、



- ・進路を考えるうえで参考になりました。
- ・国家試験の勉強方法について参考になりました。
- ・新学期にこのような機会があって、モチベーションになりました。
- ・機会があったら、交流会に参加して下さった先輩方とお会いしてお話を聞きたいです。
- ・新卒で訪問看護師をしている方や、訪問看護師コースを履修した後病院で働かれている方のお話が参考になりました。
- ・新型コロナウイルスの影響で自宅学習になっている中、就職活動や国家試験についての情報が得られて参考になりました。

交流会の実施に当たってご協力いただき、ありがとうございました。

看護学科交流会班一同



看護学科12期卒後10年同期会でお会いして



玉里八重子 (元教員)

今回、2020年1月12日の良き日に、看護学科12期生の同期会にお招きいただきありがとうございました。緑豊かで、日本の景勝「琵琶湖」が一望できる滋賀医科大学看護学科を、ご卒業されてから初めてお目にかかる方々でした。

皆様の人生で、もっとも華やいで充実した日々をお送りになられているキラキラした雰囲気は、とてもとても素敵でした。学生時代の母性看護への色々な思いや、看護師を目指し学習する中で出会う葛藤などについてお話したことなど思い出され、たいへん懐かしく楽しい時を過ごさせていただきました。助産師課程に進まれた方は、特にこのコースが始まって早々のこともあり、色々とお苦勞をおかけいたしましたので、感慨深いものがあります。

お仕事やご家庭でのご活躍のこの10年は皆様をこのように素敵の方々に磨いたのだと、心よりうれしく頼もしく思います。皆様にお目にかかり充実したお話をお伺いし、皆様は今日の看護・医療の日々進展する世界をリードされ日本の中核的な役割を担われる人材であることを確信して、とても心豊かになりました。

この会を企画され、見事に運営された幹事やそのサポーターの方々ありがとうございました。

滋賀医科大学同窓会「湖医会」ご担当の方々、退職後も長年にわたり大学のご活躍・発展のご様子を、ご案内いただき感謝申し上げます。

令和2年1月 吉日



卒後10年同期会に参加して



藤居 弥生(看12期)

卒業してから早10年。卒業当時はかなり先だなと思っていたその年が今年やってきました。湖医会の幹事に選ばれたその時もあまり実感がなく、何もわからないままに壇上にあがり、選出の挨拶をしたことを今でも鮮明に覚えています。就職してからというもの、多忙な日々を追われて、結婚、出産といったイベントもあり、遠くに就職した友達ともだんだん疎遠になっていました。卒後10年は今年だったかな？と思っていたところで、湖医会事務局から連絡を頂き同窓会の準備を始めることになりました。私は今3人の子どもの育児真最中で、子どもたちに振り回されながらも、事務局の方の全面的なサポートを頂いて、開催日を迎えることができました。

当日、会場につくと慣れ親しんだ旧友たちや恩師の玉里先生のお姿が見られて、本当に感激しました。幹事として、みなさんに呼びかけて、遠い関東の地からも集まってくれて、まるで夢のようなひと時でした。

私自身、30年も生きてると様々なことを経験するようになりました。まるで自分のところにばかりに困難が降りかかっているかのように思われる日々もありました。

同窓会では、学生時代と変わらず、キラキラ輝く旧友たちでしたが、口を開いて話してみると、みんなそれぞれいろいろな経験をし、いろいろな困難に立ち向かって頑張っていると言うような話を多く聞

かれました。人の苦労話を聞いて安心するなんて、ほんとに性が悪いのですが、学生の時みんなで乗り越えた実習のことを思い出しました。あの時のように、場所は違っても、それぞれの場所で、それぞれの困難に立ち向かって頑張っているんだなぁと聞いて勇気ができました。そしてまた明日からも頑張れる気がしました。みなさんにお会いできて、こんなにもパワーをもらい、そして、清々しい気分になりました。同窓会をやってよかったです。もう1人の幹事の松下（旧姓赤澤）さんと、湖医会のスタッフみなさん、そして、参加してくれた同期のみんな、玉里先生、残念ながら参加はかなわなかったけど、メールや返信をくれたみんな。みんなのおかげで素晴らしい同窓会ができました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、2次会に行ったメンバーで卒業アルバムを見ていて、大変元気づけられたことがあるので紹介します。アルバム編集後記にあった文章です。「仕事がつらくなったときは、このアルバムを開いてみて下さい。みんながんばってるんです★気持ちを切り替えたら、明日もお仕事がんばりましょう☆」

ではみなさん、お体にはくれぐれも気をつけて下さいね。また明日からも無理しすぎず、頑張ってください。またお会いできる日を楽しみにしています。



澤 ひかり (看12期)

滋賀医科大学看護学科を卒業して、10年。私は看護師として勤務し、母となり、仕事復帰した最中に同窓会の案内がありました。環境の変化もあり、毎日が慌ただしく、案内が来た当初は、参加しようか迷いがありました。しかし、卒後中々会うことのできない友人、先生方に会いたいと思い参加を決めました。

胸を踊らせながら同窓会に参加すると、大学時代より大人になった友人の姿があり、懐かしさと嬉しさでいっぱいになりました。また、先生方は、大学の頃と変わらないハツラツとした面持ちでおられ、看護実習でのご指導いただいたことが、ついこの間のように感じられました。

美味しい食事をしながら、たくさんの思い出話に花が咲きました。大学時代の実習のエピソードや、先生、友人の話など、色々な事が蘇り、大学生の頃に帰ったような楽しい時間を過ごすことができました。また、今現在、それぞれ置かれている状況で、日々奮闘している話などを聞き、自分も頑張ろうと奮起することができました。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、貴重な時間を過ごすことができました。

このような機会を設けていただきました湖医会の方々や幹事の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、同窓の方々の尚一層のご健康とご活躍を祈願いたしております。

新型コロナ禍の学生の状況

看護学科常任幹事 山下 敬(看5期)

新型コロナウイルス感染症の影響で、看護学科学生の学生生活も例年の内容から大幅な変更を余儀なくされました。学生関連の主な出来事をご紹介します。

2020年3月：令和元年度の卒業式は卒業生と大学代表のみで、保護者や来賓の出席の無い形で挙行されました。附属病院への立ち入りが禁止となり、病院での実習も中止となりました。

4月：4月1日の政府の決定を受け、入学式が中止となり、新入生のオリエンテーションは30分のみ内容で行われました。その後登校待機となり、当面全ての講義・演習・実習を遠隔で行う旨が通知されました。

5月：5月1日、9月末まで大学への立ち入り禁止が宣言されました。その後状況に応じて規制が変更されている状況です。

6月：就職にも関係するため、医学科5・6年生と看護学科4年生のみ健康診断が実施されました。図書館や講義室の制限も解除されました。なお、今年度は浜医戦が浜松医大での開催予定でしたが中止となりました。

7月：4月から実施されていた臨床実習に引き続き、看護学科4年生の統合実習もオンラインでの実習となりました。

8月：西医体は中止となりました。看護学科1年生は、8月になってやっと学内で演習を行いました。

9月：看護学科2年生の基礎実習Ⅱは、オンラインでの実習（一部、学内実習室での演習）となりました。

10月：後期より、授業は原則対面（一部オンラインでの遠隔授業）で行われることが決定されました。看護学科3年生の臨床実習は、オンラインと臨床での実習を組み合わせた形での実施となっています。また、若鮎祭は中止となりました。

現在講義や演習は1コマ60分に短縮されて行われています。3密を避けるために、2つの教室に分かれて行われたり（一方は対面、もう一方はZoomで接続など）、座席が固定になったり、様々な工夫がされています。学生はレポート課題中心の評価等へのストレスも大きいようですが、それでもオンラインではなく大学に来て学べることが嬉しい、という声も聞こえてきます。クラブやサークルといった学生の課外活動も再開され、先輩や後輩と談笑している姿も、見られるようになってきました。

今年度、同窓会「湖医会」としては後輩のサポートをすべく、奨学金の予算を拡大し、特別奨学金のコロナ枠を設け貸与を行いました。また、教科書を購入する時の送料をサポートするなどの支援も行っています。湖医会としての学生へのサポートに対し、同窓生の一人として厚く御礼申し上げます。いまだ感染拡大が続いている現状で、今後どのようなようになっていくのかは先行き不透明ですが、引き続きのご支援よろしくお願いいたします。

（「湖都通信 医学科版 85」相見副会長の記事に追記したものです。）

編集部会より

西尾ゆかり (看2期)

湖医会の常任幹事と湖都通信（看護学科版）編集部会の新メンバーをご紹介します。

常任理事に川原さん（16期）と門田さん（16期）、編集部会に服部さん（2期）が参加して下さることになりました。みなさん、お忙しい中時間を作ってくださいありがとうございます。無償の活動で大変恐縮ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、第7号発行に向け、今年度は7月19日に津田（1期）、西尾（2期）、山下（5期）の3名で、10月31日には服部（2期）、川原（16期）も加わった5名で賑やかに話し合いを行いました。この10年程は滋賀や大阪で必ず対面の話し合いを行ってきましたが、今年は新型コロナウイルス感染予防のためオンラインで開催しました。新メンバーを交えた今回は、これまでの湖医会（看護学科）の活動について振り返りながら、今後の活動についても話し合い

ました。看護学科開学から25年が経ち、会員が増えたことから今回久しぶりにアンケートを実施することになりました。会員みなさまの同窓会へのご意見・ご感想を頂戴し、今後の会報作成の際に参考にさせていただく予定です。お手数ですが、下記のQRコードもしくはこちらのURL（<https://forms.gle/j2BWMHpNkAYWi49N6>）からご意見・ご感想をお聞かせください。締め切りは2021年5月末とさせていただきます。

湖都通信（看護学科版）は年に一度の発行ではありますが、同窓の仲間が世界のどこかで日々がんばっている近況を目にすることでほっとしたり、力づけられたりと声援を送られるような存在であり、親子ほど年の離れたかわいい後輩やベテランの先輩たちとの新たな出会いの場であったり、会員みなさまの生活の一部としていろんな形でお役に立てば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



訃報

謹んで哀悼の意を表します。

令和2年8月3日

山下 景子 (看9期)

2020年度「湖医会」総会 議事録

●日時／2020年9月9日（水）（書面回答締切日）

本年度総会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により書面での実施
議 題

1. 2019年度事業報告について 原案（資料1-1）のとおり承認された。
2. 2019年度決算見込について 原案（資料1-2）のとおり承認された。
3. 2020年度事業計画について 原案（資料2-1）のとおり承認された。
4. 2020年度予算について 原案（資料2-2）のとおり承認された。
5. 役員（会長）の改選について （資料3）

永田 啓 氏が次期会長に承認された。任期は、2020.11.1～2023.10.31の3年。

※各資料は {湖医会} HPを参照

会員の現況^(1/1現在) 総数 6,640名

●卒業会員 { (学 部) 5,486名 (医 学 科 3,928名、
看護学科 1,558名)
(大学院) 16名

●学友会員 ————— 98名

●学生会員 975名 (学部：957名、博士：10名、
修士：8名)

●特別会員 ————— 65名



コロナ対策寄附には多大なご寄附を賜り誠にありがとうございました。

引き続き本学では、ご寄附先として、①大学運営全般、
②附属病院の運営、③学生の修学支援を設けております
ので、ご支援の程お願い申し上げます。

詳細は、大学サイトまたは
右のQRコードからご覧い
ただけます。



滋賀医科大学 <https://www.shiga-med.ac.jp>
お問合せ先 総務企画課
電話：077-548-2012

湖医会ポータルサイト バージョンアップ!!

地図機能により表示に同意いただいている湖医会会員の勤務先を検索できます!



登録がまだの方は是非登録をお願いします!!

配布のID、パスワードがご不明な方は、ご連絡ください。 問い合わせ／e-mail : koikai@koikai.org

会費納入のお願い

看護学科は終身会費制 **終身会費 20,000円!**

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。

20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。

終身会員でないと、広報誌や卒後10年・20年の同期会の案内などがお届けできないことになります。

詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、メールまたはファクスで事務局までご連絡ください。



表紙の写真：一般教養棟・基礎研究棟（撮影：学生写真部）